



さまざまなジャンルのサークル・グループが一堂に集結！

令和2年度 津市青少年文化芸術祭



問い合わせ 文化振興課 ☎229-3250 FAX229-3344

1/24 日 10:00~15:00
サンヒルズ安濃ハーモニーホール

小学生～高校生の皆さんが、ダンス、バレエ、吹奏楽、ジャズ演奏、琴演奏、仕舞、太鼓、書道、ジャグリングなどのパフォーマンスを披露する文化芸術祭を開催します。お楽しみ抽選会もありますので、ぜひご来場ください。



シリーズ

人権

第90回

祖母が教えてくれたこと

いつも優しく笑顔だった祖母が、認知症になった。

最初は物忘れが多い程度だったが、以前と様子が違うことが多くなり、病院で診てもらったところ、軽度の認知症であると診断が下りた。身近な誰かが認知症になることもあり得ると思っていたが、実際に自分の祖母が認知症になったことはショックだった。

中学生の頃、職業体験の授業で3日間老人ホームの仕事を体験することがあり、私はそこで初めて認知症の人と接した。当時の私は老人ホームのことを全く知らず、おじいちゃんやおばあちゃんとのんびりお話をしながら将棋を指したり、広い芝生の庭に洗濯したばかりの真っ白なシーツを干したりするような仕事をするのだと思っていた。しかし、実際には入居者のさまざまな行動や、耳が聞こえにくくなった認知症を患っている人たちとの意思疎通の難しさにパニックになった。祖母が認知症になったと聞いて真っ先に思い浮かんだのは、この職業体験の記憶であったため、心中穏やかではなかった。

そんな私の想像とは違い、祖母の笑顔は昔のままだった。部屋の模様替えをした時、そのことを忘れてしまっても、勝手に何をしたんだと怒ることなく、「私は忘れちゃったけど、あなたがやってくれたのね、ありがとう」と言ってくれたのだった。当初、祖母が何度も同じことを繰り返して

話したり、話していたことをすぐに忘れてしまったりすることに不安を覚えていたが、どんな様子であろうと祖母は祖母であり、何も変わっていないのだと気が付いた。

認知症のことを自分なりに調べ、認知症は本人の責任ではない、誰もがなり得る病気だということを知った。また、誰かが定期的に会って話をすることがいい影響を与えると知り、時間があれば会って話をするようにした。私は祖母が認知症になったということだけで、今までとはまったくの別人になってしまうという思い込みが心の中にあったのだと気付かされた。そして、認知症のことを正しく知ろうとせず、相手の行動だけを見て、決めつけていた自分が恥ずかしくなった。

改めて中学生の頃の職場体験でのことを思い返してみると、当時は認知症のことを知らずにいたので受け入れられずにいたが、今ならあの頃のおじいちゃんやおばあちゃんの思いを聞こうとしたり、自分に何ができるかを考えたりできるのではないかなと思う。

祖母とのことをきっかけに、偏見を生み出すのは差別をされる側ではなく、差別をする側であり、その中に自分もいることに気付かされた。この気付きを生かし、これからの人生の中で、新しい出会いがある度に、偏った見方や考え方をしていないかを自分自身に問いかけ、これらにとらわれることなく生きていきたいと思う。

(20代・男性)